

2024 年度 授業計画(シラバス)					
学 科	理学療法士学科	科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	理学療法治療学Ⅱ-B②(脊髄損傷)	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	夜間部3年	学期及び曜時限	後期	教室名	901教室/機能訓練室
担 当 教 員	宮下 創				
実務経験とその関連資格	理学療法士として兵庫県立総合リハビリテーションセンターに3年、JCHO星ヶ丘医療センターに9年勤務。2つの病院で脊髄損傷者に対するリハビリテーションに従事。2017年に認定理学療法士(脊髄障害)、2018年に認定理学療法士(脳卒中)を取得。担当症例数は頸髄および脊髄損傷例を合わせて100例以上を担当しており、現在は所属施設において後進育成に従事している。脊髄損傷に関する学会発表を多数行っている。教育業績は理学療法士養成校(専門学校)にて2017年より「脊髄損傷のリハビリテーション」の授業を担当している。2020年に森ノ宮医療大学大学院保健医療学研究科保健医療学専攻修士課程を卒業し保健医療学修士を取得。修士過程では「頸髄損傷者の嚥下障害」について研究。日本理学療法士協会会員、日本神経理学療法学会一般会員、日本脊髄障害医学会会員(、日本摂食嚥下リハビリテーション学会会員、日本嚥下医学会会員←退会予定ですので削除)。枚方市理学療法士会生涯学習部および臨床教育部部長。2024年度より脊髄損傷理学療法研究会幹事に就任。				
《授業科目における学習内容》					
到達目標は、脊髄損傷の疫学・病態・評価・理学療法について理解することである。脊髄損傷者の日常生活動作(ADL)は、(教科書に加え、←削除)動画を用いて解説する。脊髄損傷の評価(と理学療法←削除)の実際は、講義と実技を通して学ぶ。					
《成績評価の方法と基準》					
定期試験(100%)により総合評価を行う。					
《使用教材(教科書)及び参考図書》					
教科書:脊髄損傷に対するPT・OTアプローチ臨床経過モデルに基づく介入(メジカルビュー社)←削除:購入なし 参考資料:American Spinal Injury Association(https://asia-spinalinjury.org/), ISNCSCI Algorithm(https://www.isncscialgorithm.com/Form)					
《授業外における学習方法》					
①解剖学、生理学、運動学の復習 ②配布資料・板書の通読による自己学習(予習、復習) ③学生間での実技練習					
《履修に当たっての留意点》					
①実技の際は、動きやすい服装で臨むこと。スカート、ジーンズは厳禁です。 ②実習で脊髄損傷患者に出会うことを想像しながら臨んでいただきたい。					
授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	授業を通じての到達目標	日本における脊髄損傷の疫学について理解する	配布資料 PC プロジェクター ホワイトボード(黒板)	配布資料・板書の通読	
	各コマにおける授業予定	オリエンテーション、脊髄損傷の疫学について解説する			
第2回	授業を通じての到達目標	脊髄損傷の病態とその理解に必要な解剖・生理学を説明出来る	配布資料 PC プロジェクター ホワイトボード(黒板)	配布資料・板書の通読	
	各コマにおける授業予定	脊髄の解剖・生理学の復習、脊髄横断面上の機能局在・運動および感覚の伝導路を復習し、不全麻痺の病型分類について解説する			
第3回	授業を通じての到達目標	脊髄損傷の標準的な評価である”ISNCSCI”について理解する	配布資料 PC プロジェクター ホワイトボード(黒板)	配布資料・板書の通読	
	各コマにおける授業予定	ISNCSCI(International Standards for Neurological Classification of SCI)の全体像を解説する			
第4回	授業を通じての到達目標	ISNCSCIの”Steps in Classification”を実施できる	配布資料 PC プロジェクター ホワイトボード(黒板)	配布資料・板書の通読	
	各コマにおける授業予定	模擬患者の評価シートから”Steps in Classification”を実践しながら解説する			
第5回	授業を通じての到達目標	頸髄および脊髄損傷者の随伴症状・合併症とその対応について理解する(1)	配布資料 PC プロジェクター ホワイトボード(黒板)	配布資料・板書の通読	
	各コマにおける授業予定	自律神経機能障害を解説する			

授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	授業を通じての到達目標	頸髄および脊髄損傷者の随伴症状・合併症とその対応について理解する(2)	配布資料 PC プロジェクター ホワイトボード(黒板)	配布資料・板書の通読
	各コマにおける授業予定	膀胱直腸障害を解説する		
第7回	授業を通じての到達目標	頸髄および脊髄損傷者の予後予測について理解する	配布資料 PC プロジェクター ホワイトボード(黒板)	配布資料・板書の通読
	各コマにおける授業予定	①完全損傷者の損傷髄節に応じたADL最終到達目標(特にC6レベル)②不全損傷者の歩行予後予測 について解説する		
第8回	授業を通じての到達目標	国家試験対策および定期試験対策	配布資料 PC プロジェクター ホワイトボード(黒板)	配布資料・板書の通読
	各コマにおける授業予定	国家試験対策および定期試験対策を行う		
第9回	授業を通じての到達目標			
	各コマにおける授業予定			
第10回	授業を通じての到達目標			
	各コマにおける授業予定			
第11回	授業を通じての到達目標			
	各コマにおける授業予定			
第12回	授業を通じての到達目標			
	各コマにおける授業予定			
第13回	授業を通じての到達目標			
	各コマにおける授業予定			
第14回	授業を通じての到達目標			
	各コマにおける授業予定			
第15回	授業を通じての到達目標			
	各コマにおける授業予定			